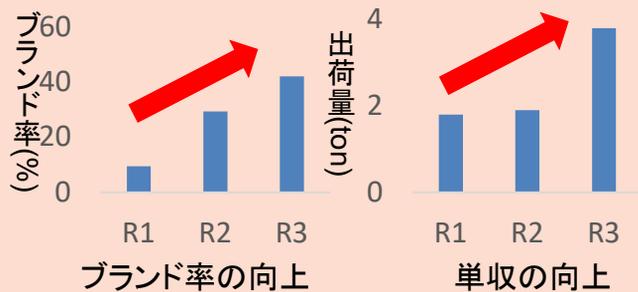
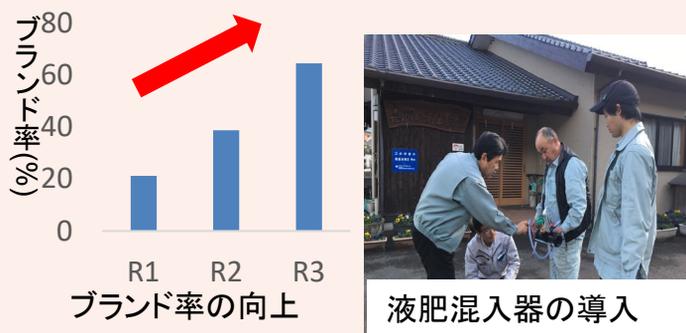


- 産地強化のため、気象に左右されにくく高品質・高収益を図ることのできる栽培方法として、温州ミカンの**根域制限栽培の導入・強化**が重要。
- 増加する**新規導入者の早期技術修得**を支援、および**規模拡大に向けた経営改善のサポート**や**省力化技術の導入**を実証。
- 他機関と連携して、新技術埋込型の導入促進、補助事業の充実。
- 得られた技術・知見をパンフレット等にまとめて周知し、**モデルを波及**することで、根域制限栽培みかんの生産拡大し、産地の販売力を強化。

具体的な成果

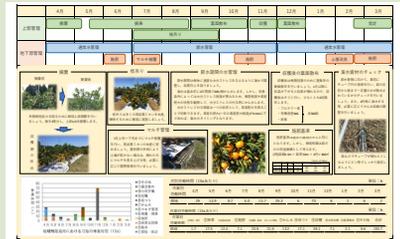
普及指導員の活動

■新規導入者の**ブランド率**および**単収**向上■大規模根域制限栽培者の**ブランド率**向上および**液肥省力施肥技術**の波及

■産地の販売力の強化

根域制限栽培みかんの単価上昇に伴い、**早生みかん全体の単価が上昇**

販売単価	R1	R2	R3
早生栽培全体	171	225	237
根域制限栽培	243	388	362

■新規導入者等に対する栽培支援
水管理や結実管理等の栽培管理支援重点農家への
充実指導栽培管理暦を用いた
適期管理徹底

■大規模根域制限栽培農家に対する濃密指導

○水管理の適正化や効率的な施肥管理の検討→**液肥混入機を用いた施肥労力の省力化を実証**

○経営改善の実証

→年度毎に経営調査結果を基に、次年度の目標と改善点、重要管理点を提案

■根域制限栽培生産技術の普及



現地研修会での技術波及



技術導入パンフレット

普及指導員だからできたこと

■**市町・JAと連携**し、根域制限栽培導入促進に係る、**農家との意見交換会**を開催した。

佐賀県

温州みかん根域制限栽培の生産拡大と産地強化

活動期間：平成30年度～令和3年度

1. 取組の背景

佐賀県では、露地温州みかん栽培において、マルチ被覆によって品質を上げているが、近年は気候変動の影響により、安定したブランド率や連年結果を維持することが難しくなっている。

そこで、気象に左右されにくく高品質・高収益を図ることのできる栽培方法として、温州みかんの根域制限栽培の生産力を向上し、導入拡大する方策を検討した。

上記の目標を達成にむけて、①新規導入者等への栽培技術修得支援②大規模根域制限栽培農家に対する濃密指導③根域制限栽培生産技術の普及を実施した。

2. 活動内容（詳細）

○新規導入者等に対する栽培支援

- ・新規重点支援農家に対し、作型開始前に経営調査結果をフィードバックと売上目標を示し、栽培管理の目標まで落とし込み実施した(令和2年度～)。
- ・栽培管理暦を作成・配布し、時期別管理の指標として役立てた(令和2年度～)。
- ・シートマルチの適期被覆を定着させるため、展示圃を設置し、果実品質向上効果を検討した。また、果実肥大や果実品質調査を行い、調査結果は SNS を活用して共有し、適期水管理の徹底を図った。

○大規模根域制限栽培農家に対する濃密指導

- ・液肥混入機を用いた施肥省力化の実証試験を行い、結果は研究会で広く紹介した(令和1年度～)。
- ・労働時間調査によって管理ごとにかかる労働時間を示し、労働時間の最適化を提案した。また、経営実態調査によって年間の経費を見える化した(令和1年度～)。

○根域制限栽培技術の普及

- ・定期的に栽培管理研修会を開催し、高品質果実の連年安定生産のために必要な事項を共有し、設置した展示圃(適期マルチおよび灌水モデル園)の状況を皆で確認した(写真1)。
- ・本活動をとりまとめ、パンフレットを作成し、更なる技術普及に活用した(図1)(令和3年度～)。
- ・より現場ニーズに即した補助事業の運用にむけて、県園芸課と農村環境課と連携して、根域制限栽培事業説明会を開催し、農家との意見交換会を行った。(令和3年度)。



図1 栽培管理シート



写真1 展示圃の状況説明

2. 具体的な成果（詳細）

○新規導入者のブランド率及び収量向上

・技術展示圃設置や経営支援等により新規導入者の意欲向上が向上し、技術習得が図られ、ブランド率、収量ともに向上した。

	R 1	R 3
ブランド率 (%)	9.4	42
収量 (t/10a)	1.8	3.8

○液肥省力施肥技術の波及

・施肥管理で液肥を用いることで、10aあたりの労働時間で、秋肥及び春肥で約25分、夏肥で約15分の労力削減効果があり、養水分は慣行施肥より迅速に可給化されることが明らかとなった。これらの結果を周知したところ、根域農家6名が当技術を導入した。

○大規模根域制限栽培者のブランド率向上

1ha規模栽培者における経営改善や省力化技術の導入を実施したところ、高品質果実生産へかける時間が増加し、農家のブランド率の向上につながった。

	R 1	R 3
ブランド率 (%)	21.3	64.6

○産地の販売力の強化

R1~3年まで、根域制限栽培
みかんの単価上昇に伴い、
早生みかん全体の単価も
上昇した(図2)。

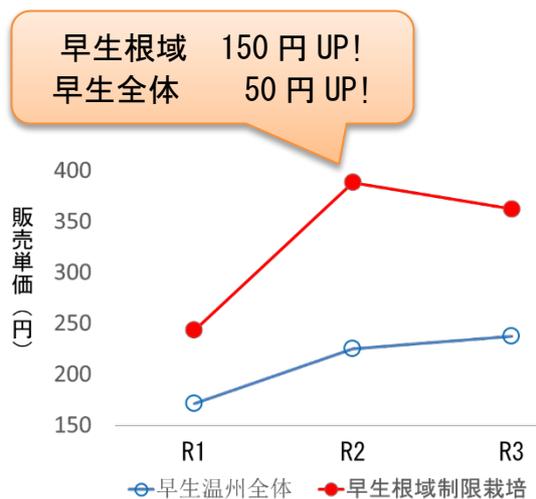


図2 早生温州の販売単価の推移

4. 農家等からの評価・コメント(鹿島市：O氏、H氏)

新規導入者重点農家：根域制限管理暦があることで、時期別でやるべき仕事
が明確になり、作業体系が組みやすくなった。展示圃として栽培管理を行
ったことで、適正管理の目安がつくようになったため、自信をもって生産拡
大を実施できた。

大規模経営重点農家：液肥混入機による省力技術を導入したことにより、
「体力面でも楽になった」「大面積を施肥する場合は利点が多いと思う」と
の前向きな感想が聞かれた。

5. 普及指導員のコメント

当地区では JA が当技術の研究会を運営し、普及も密に連携しながら本活
動を行ってきたため、非常に効果的な支援・指導を行うことができた。近年、
当地区では若い後継者が当技術を導入する事例が急激に増加している。その
中で、早期技術習得者の経営・技術面での事例を示せたことは意義があった
と考える。(藤津農業振興センター・主査・久間祥子)

6. 現状・今後の展開等

新規導入者に対しては、今回取りまとめた技術パンフレット等を用いて、早
期技術習得の支援を行う。加えて、根域制限栽培の大規模化も今後、確実に増加
していくので、今回得られた成果を糧に、支援を充実させる。さらに、農家、JA、
市町等と連携し、今回作成した導入希望者向けの資料も活用しながら、今後の産
地活性化を進めていきたい。